

風土記の花だより²⁵⁰

今、そしてこれから見られる植物(2024年8月31日)

台風10号の速度と進路が気になります。これを書いている今、まだ九州あたりです。私の都合で、花だよりの発行が不規則になり、申し訳ありませんでした。猛暑は続きますが、朝早く庭の水やりをする時、何となく秋の風が吹いているのを感じます。ヌルデの花が咲いています。でも「咲



いている」と言えるような花ではありませんね。ウルシ科ですが、ハゼノキやウルシのようにかぶれません。(まあ、体質にもよりますが・・・) ハゼノキのように羽状複葉ですが、軸に翼(よく)と呼ばれる幅広い部分があります。名前はヌルヌルした感じがしますが、語源ははっきりしません。雌雄別株で、写真は雄株、ですから咲いている花は雄花です。この木にはよく虫こぶができ、昔はそれから既婚女性が使う「おはぐろ」を作ったそうです。万葉植物園入り口の株には虫こぶがよくできます。



ナツフジの花が咲き始めました。ご存じのフジとは比べものにならないほど小さく、色も全く違います。写真は団子みたいに花が固まっていますが、フジの花のように垂れ下がることもあります。万葉の昔は季節外れのフジという意味の「ときじきふじ」という名前がつけられていました。こんな歌が残っています。我がやどの 時じき藤の めずらしく 今も見てしか 妹(いも)が笑まひを。ナツフジのきれいな花のようなあなたの笑顔を今すぐにも見たいものです というような意味でしょうか。



これはキツネノマゴという面白い名前の植物の花です。どのあたりが狐の孫なのでしょうね。それもキツネノマゴ科キツネノマゴ属のキツネノマゴです。念の入ったことですね。秋に咲く花ですが、まだこんなに暑いのに咲き始めました。ところで、狐には孫もいますが、ひ孫もいるようで、キツネノヒマゴという植物を春に石垣島で見ました。またキツネノメマゴというのもあるそうです。ところで、メマゴって何なのでしょう。



この細長い花はリュウキュウヤブランです。ヤブランはよく聞きますね。これは、一株ずつまとまっていて、生え広がりますが、リュウキュウの方は地下茎が発達していて広く一面に生える感じです。そして、葉の幅も細いし、全体に少し小さめです。写真では分かりにくいですが、実際に見比べてみると一目瞭然です。名前にランと付きますが、かつてはユリ科に分類され、今はキジカクシ科と言うことになっています。

松下